◆参考資料

1.セミナー参加者アンケートレポート
　　①企業・大学関係者
　　②地域関係者
2.研修会参加者アンケートレポート
3モニターツアー参加者アンケートレポート
4 モニターツアー受入地域関係者アンケートレポート
5 企業・大学等と農山漁村の連携・交流事例集

2014年度 農都交流プロジェクト

セミナー参加者アンケート調査
結果レポート（企業・大学）

※ 本レポートは2014年度に実施した以下の**農都交流セミナー**に**参加した企業等**を対象に行ったアンケート調査の集計結果である。

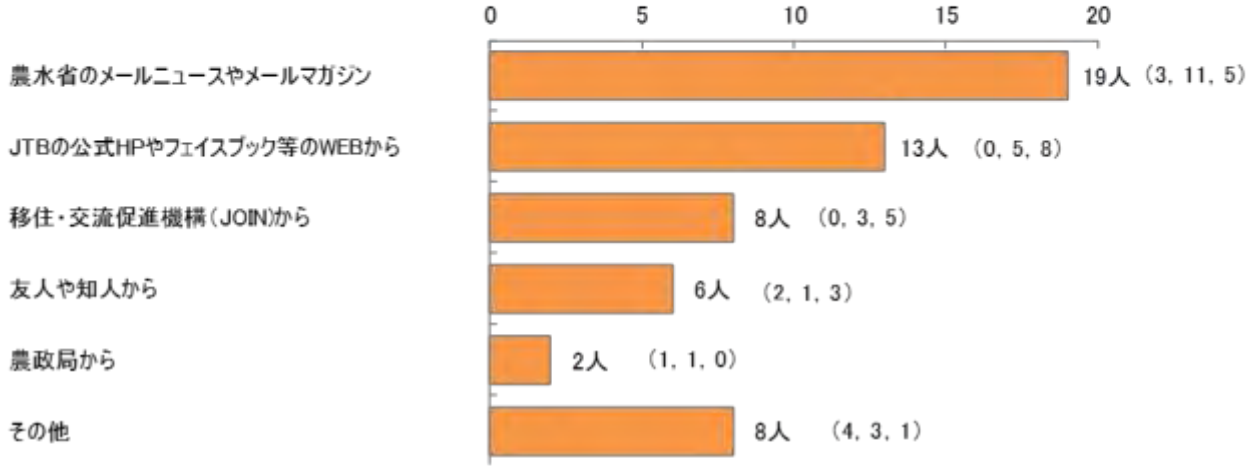
1）大阪セミナー　2014年7月17日（木）（回答者12名）

2）東京セミナー　2014年7月24日（木）（回答者26名）

3）東京セミナー（第2回）　2015年3月12日（木）（回答者18名）

1. セミナーの認知経路（複数回答）

◆ セミナーの認知経路で最も多かったのは、「農水省のメールニュースやメールマガジン」だった。

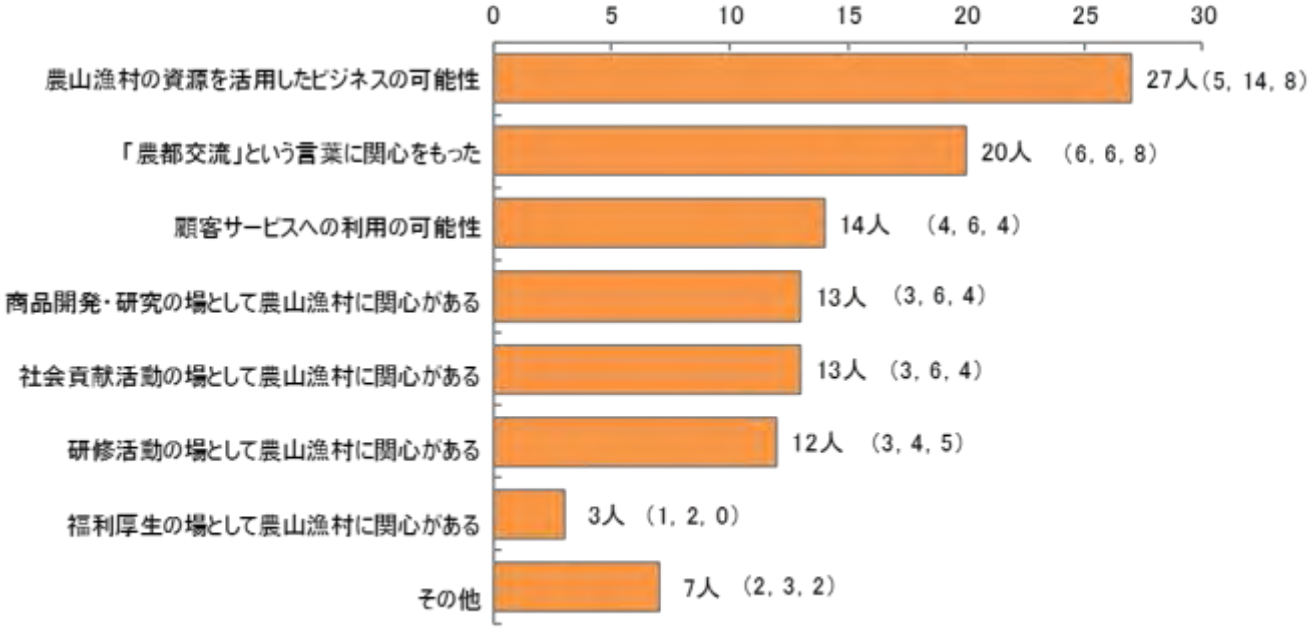


※（ ）内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

2. セミナーへの参加動機（複数回答）

◆ セミナーへの参加動機では、「農山村の資源を活かしたビジネスの可能性」をあげる回答者が多く、全体的に事業活動に直結するテーマとして、農山漁村との交流をとらえていることがうかがわれる。

◆今回のセミナーへの参加者は、相対的にBSR活動やセミナーの場としての農山漁村への関心はやや低い傾向にあった。



※（ ）内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

3. 農山漁村との交流活動の実施状況（複数回答）

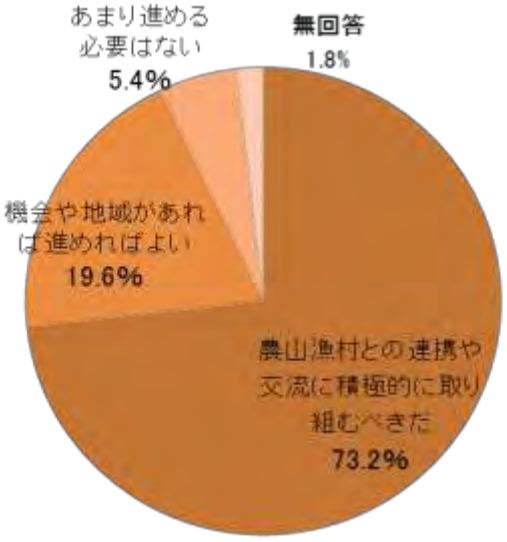
◆今回セミナーに参加した企業等で、現在農山漁村との間で行っている交流活動で多いのは、「CSR活動」と「商品開発や商品企画のための合宿」だった。「活動なし」が28人と多く、まだ交流活動に至っていない企業が多いことがうかがわれる。

（人）

	交流活動	全体	大阪	東京	東京(2)
1位	社会貢献活動（CSR）	10	2	4	4
2位	商品開発や商品企画のための合宿	7	2	4	1
3位	部門や部署ごとの研修やミーティング	5	—	1	4
4位	社員旅行やお客様招待ツアー	3	1	2	0
4位	会社の福利厚生活動（味覚狩りツアーなど）	3	1	1	1
4位	組合の福利厚生活動	3	—	2	1
4位	新入社員の研修活動	3	—	1	2
8位	スポーツ部やサークルの合宿	2	1	—	1
8位	管理職昇任時などにおける研修活動	2	—	1	1
	その他	6	1	4	1
	農山漁村で行っている活動はない	**28**	**6**	**12**	**10**

4.「農都交流」活動の今後の取組への考え方

◆「農都交流」の今後の取組については、「積極的に取り組むべきだ」とする回答者が7割を超え、「機械や適当な地域があれば進めればよい」と合わせて9割以上が「推進すべき」と考えている。



	積極的に交流を進めるべきだ	機会や地域があれば進めればよい	あまり進める必要はない	無回答
大阪	9人	2人	1人	—
東京	18人	5人	2人	1人
東京(2)	14人	4人	0人	—
合計	41人	11人	3人	1人
	56人	73.2%	19.6%	5.4%	1.8%

5. 今後取組みたい活動（複数回答、活動意向のある34人）

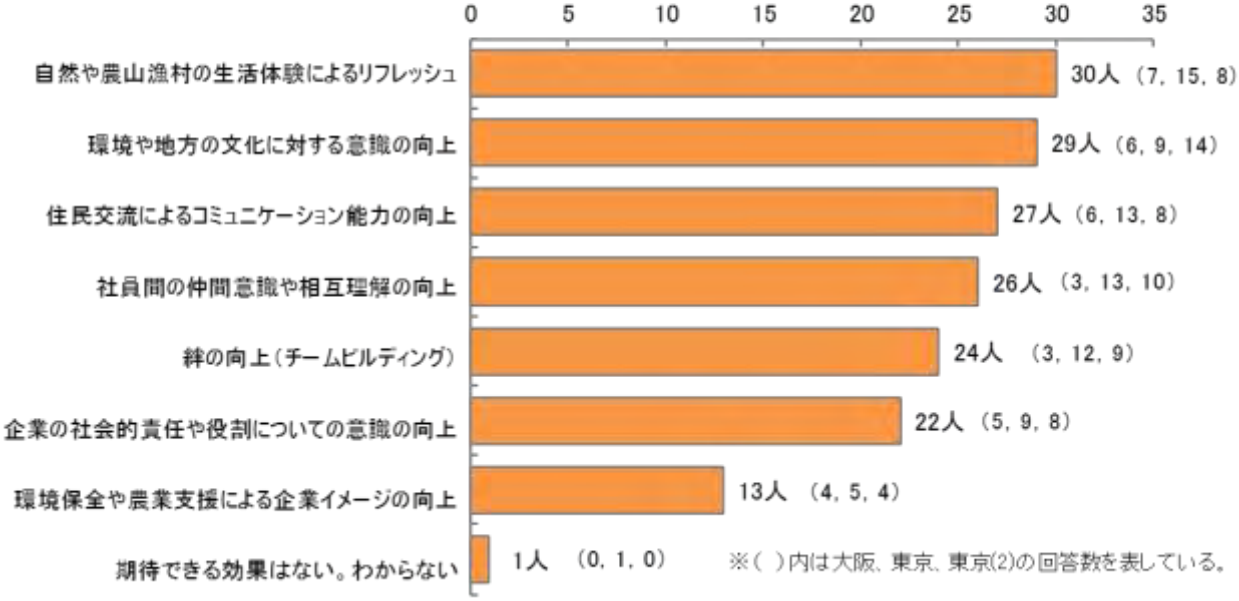
◆「農都交流」活動に今後取組みたいと答えた人に、どのような活動に取組みたいかを聞いたところ、「商品開発や商品企画での連携」「社会貢献活動やボランティア活動」「新入社員や管理職の研修」が上位を占めた。

（人）

	交流活動	全体	大阪	東京	東京(2)
1位	商品開発や商品企画での連携	26	3	11	12
2位	社会貢献活動（CSR）やボランティア活動	23	7	8	8
3位	新入社員や管理職昇任時などにおける研修	18	1	11	6
4位	部門や部署ごとの研修やミーティングの場	13	1	6	6
5位	会社の福利厚生活動（味覚狩りツアーなど）	11	4	5	2
6位	社員向け農園の借り上げ	8	3	1	4
7位	組合の福利厚生活動	5	—	3	2
7位	スポーツ部やサークルの合宿	5	1	2	2
7位	社員旅行やお客様招待ツアー	5	—	2	3
	その他	2	1	1	0

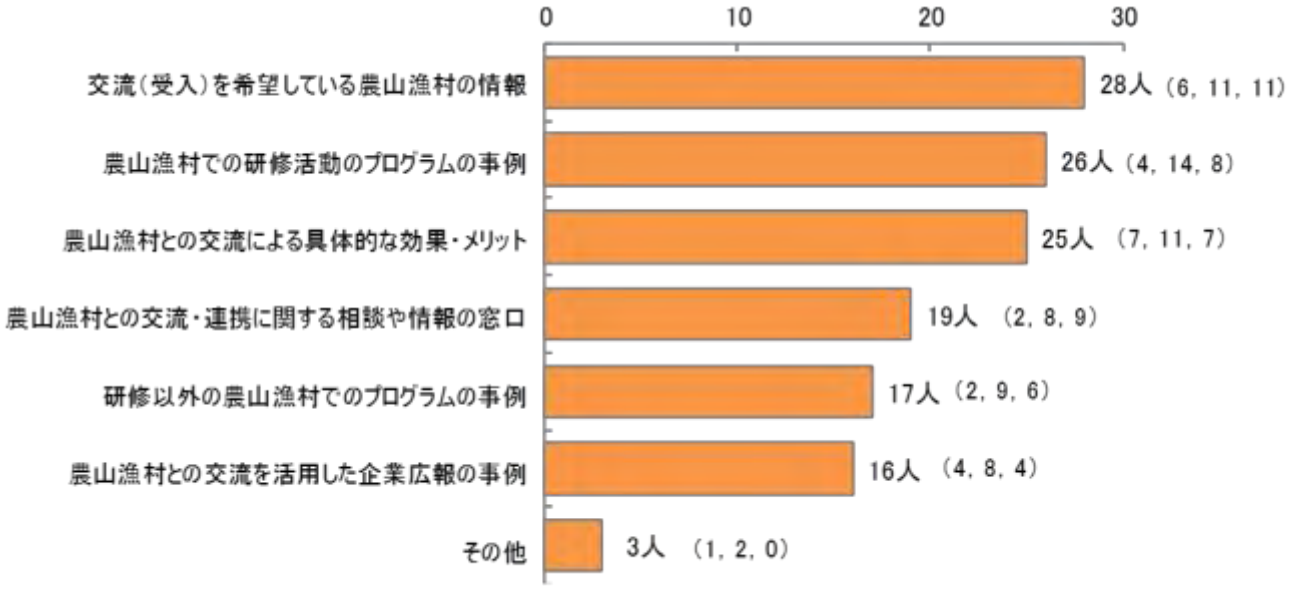
6.「農都交流」の効果について

◆「農都交流」の効果や期待することについては、「自然や農山漁村の生活体験によるリフレッシュ」が最も多く、対で「環境や地方の文化に対する意識の向上」となった。以下「コミュニケーション能力」「仲間意識や相互理解」「絆の向上（チームビルディング）」が続く。項目間のポイントの差は大きくなく、期待する効果は多様化している。



7.「農都交流」を進めるうえで欲しい情報（複数回答）

◆「農都交流」を進めるうえで欲しい情報は、「交流先となる農山漁村の情報」「農山漁村での研修プログラムの例」「交流の擬態的な効果やメリット」が上位を占めた。全体的な印象としては、農山漁村との交流の意義や効果はほぼ共有されているが、実施に向けての社内の合意を形成するための情報を必要としている企業が多いようである。



※（ ）内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

2014年度 農都交流プロジェクト

セミナー参加者アンケート調査
結果レポート（地域関係者）

※ 本レポートは2014年度に実施した以下の**農都交流セミナー**に**参加した企業等**を対象に行ったアンケート調査の集計結果である。

1）大阪セミナー　2014年7月17日（木）（回答者12名）

2）東京セミナー　2014年7月24日（木）（回答者26名）

3）東京セミナー（第2回）　2015年3月12日（木）（回答者18名）

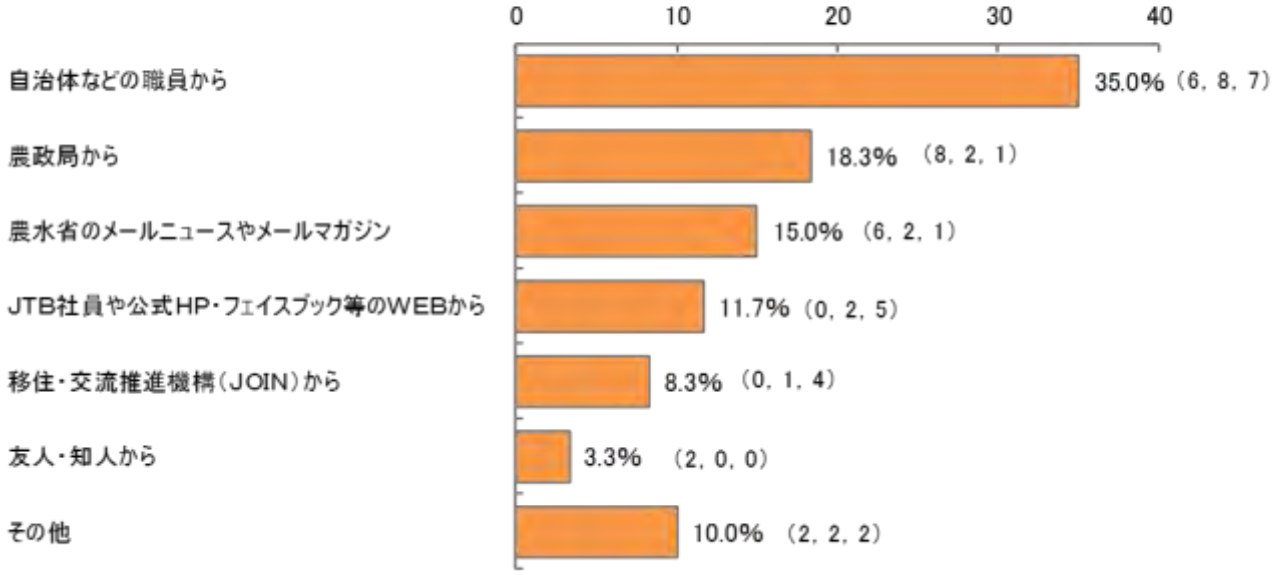
［回答者の属性］

（人）

属性	全体	大阪	東京	東京(2)
自治体職員	30	5	11	14
NPO、地域づくり団体等	15	7	3	5
農村漁業者	5	4	―	1
JA等の組合	2	2	―	―
その他	8	6	2	―
	60	24	16	20

1．セミナーの認知経路（複数回答）

◆ セミナーの認知経路で最も多かったのは「自治体などの職員から」で35%をしめた。
以下「農政局」（18%）、「農水省のメールニュースやメールマガジン」と続く。



※（ ）内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

2.「農都交流」(都市部の企業や大学等)の受入状況

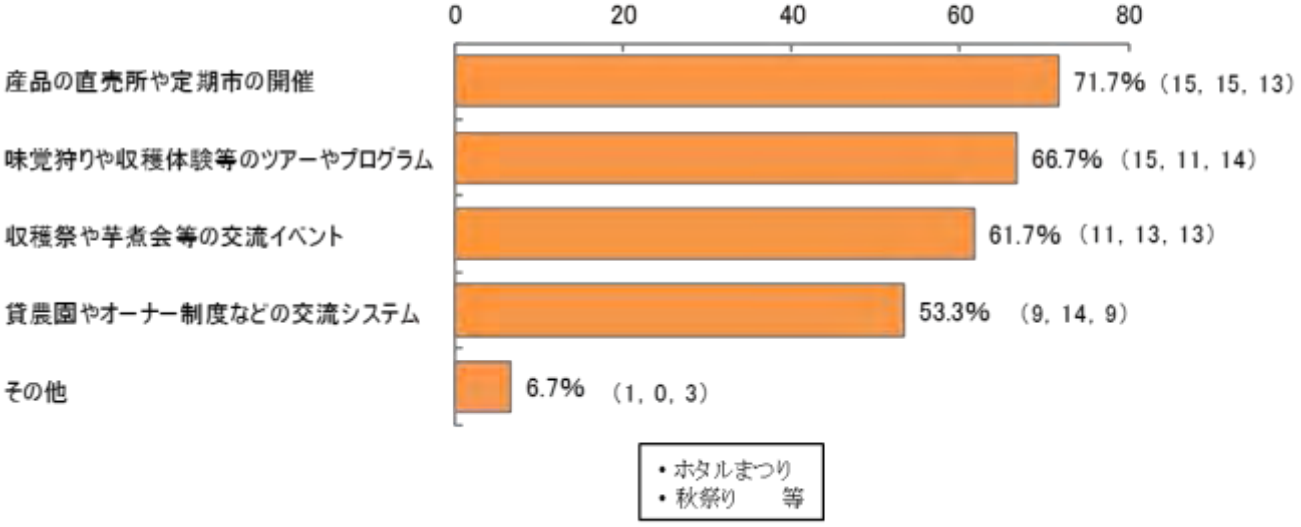
◆現在の都市部の企業や大学等との交流受け入れは、小中高校の受入れは多いが大学企業等の受け入れはまだ少ない状況にある。研修活動を受入れているのは31.7%にとどまり、半数近くが受入れを行っていないと答えている。。

(%)

受入内容	すでに多数を受入	受入は少ない	受入を行っていない	無回答
ア　都市部の幼小中高校の体験学習(日帰り)	31.7	26.7	28.3	13.3
イ　都市部の幼小中高校の体験学習(宿泊)	30.0	20.0	31.7	18.3
ウ　都市部大学等のゼミやサークル等の合宿や研修	31.7	31.7	25.0	11.7
エ　都市部大学等の運動部の合宿	10.0	31.7	36.7	21.7
カ　都市部企業の研修活動	11.7	20.0	46.7	21.7
キ　都市部企業の運動部やサークルの合宿	3.3	21.7	51.7	23.3
ク　都市部企業の社会貢献活動(CSR)	15.0	23.3	43.3	18.3
ケ　都市部企業の社員旅行やレジャー(味覚狩り等)	15.0	25.0	45.0	15.0

3. 都市部住民(個人やファミリー等)をターゲットとした活動について(複数回答)

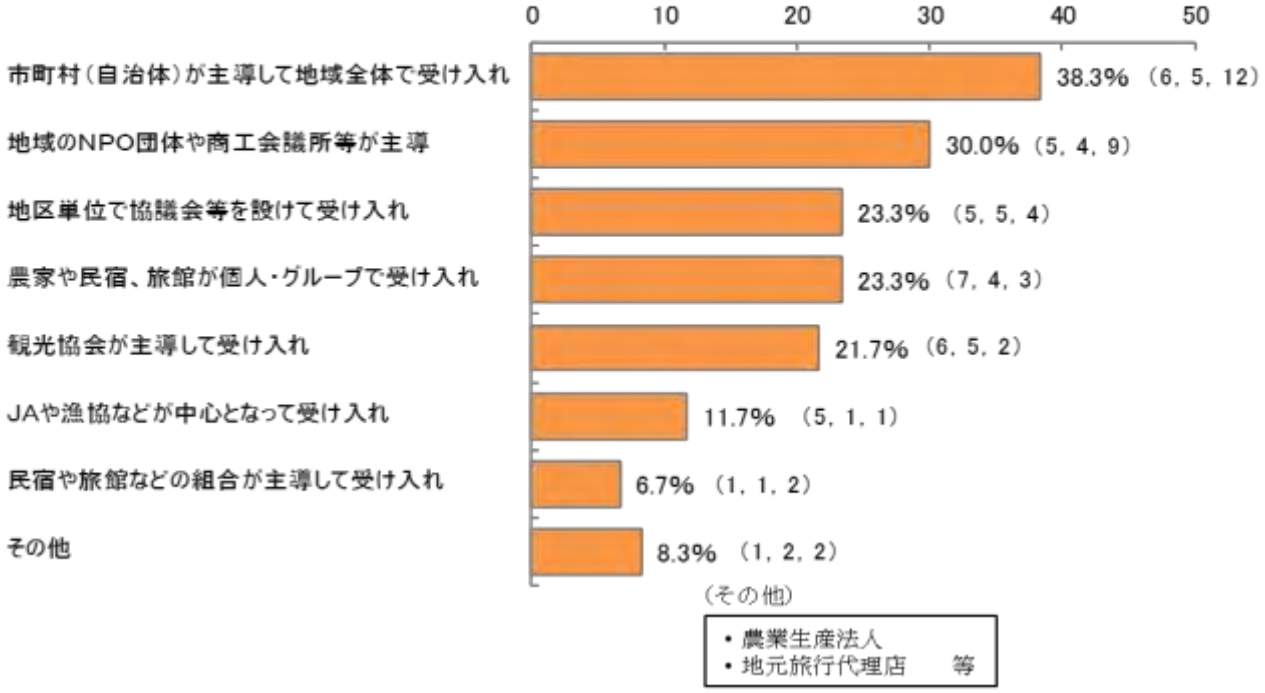
◆都市部の個人やファミリーをターゲットとした活動については、各地域ともに積極的に行っている。「直売所や定期市」が7割を超えたのをはじめ、いずれの活動も過半数を超えている。



※(　)内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

4. 都市部住民等を対象とした交流活動の受入主体（複数回答）

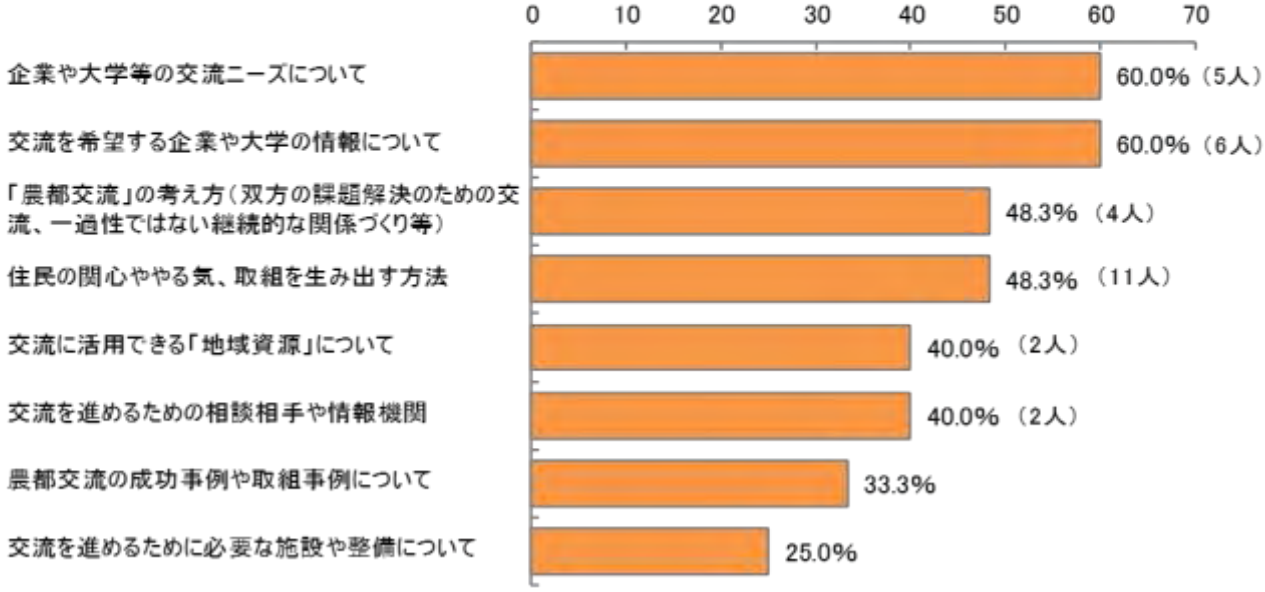
◆受入主体としては「市町村（自治体）を中心に地域全体で」がトップで38%。次いで「NPO団体や商工会議所等」が30%で続く。「地区協議会」と「個人やグループ」が24%でならび、受入主体が多様であることが読み取れる。



※（ ）内は大阪、東京、東京(2)の回答数を表している。

5.「農都交流」についての関心事（複数回答）

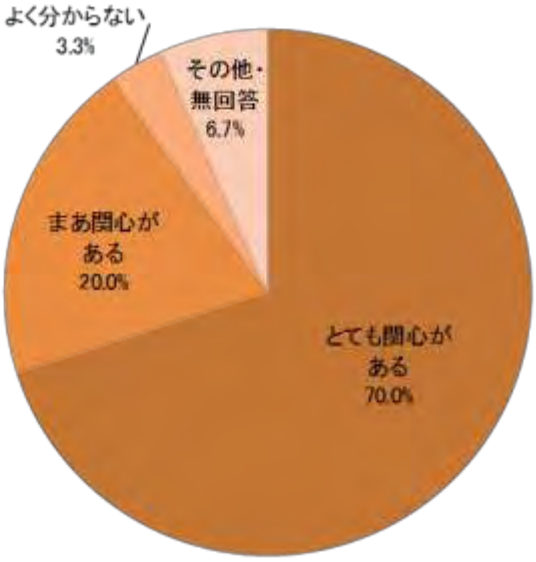
◆農都交流についての関心事は、考え方から交流を希望する企業・大学の情報まで、多岐にわたって関心が高い（情報を求めている）。こうした中、「住民のやる気や取組を生みだす方法」を最も関心があるとする人が多い（11人）。体制づくりも課題のようだ。



※（ ）内は最も関心がある人の人数

6. 農都交流に対する関心度

◆農都交流への関心度は高く、「とても関心がある」とする人が7割に達している。「まあ関心がある」とする人を合わせると、回答者の9割が関心ありとなった。



	大阪	東京	東京(2)
とても関心がある	16人	13人	13人
まあ関心がある	6人	2人	4人
よく分からない	―	―	2人
その他・無回答	2人	1人	1人

2014年度 農都交流プロジェクト

ワークショップ参加者アンケート調査
結果レポート

※　本レポートは2014年度に実施した以下の農都交流ワークショップの参加者を対象に実施したアンケート調査の集計結果である。
（地域でグリーン・ツーリズムに取組んでいる自治体や団体、NPO、農林業従事者等）

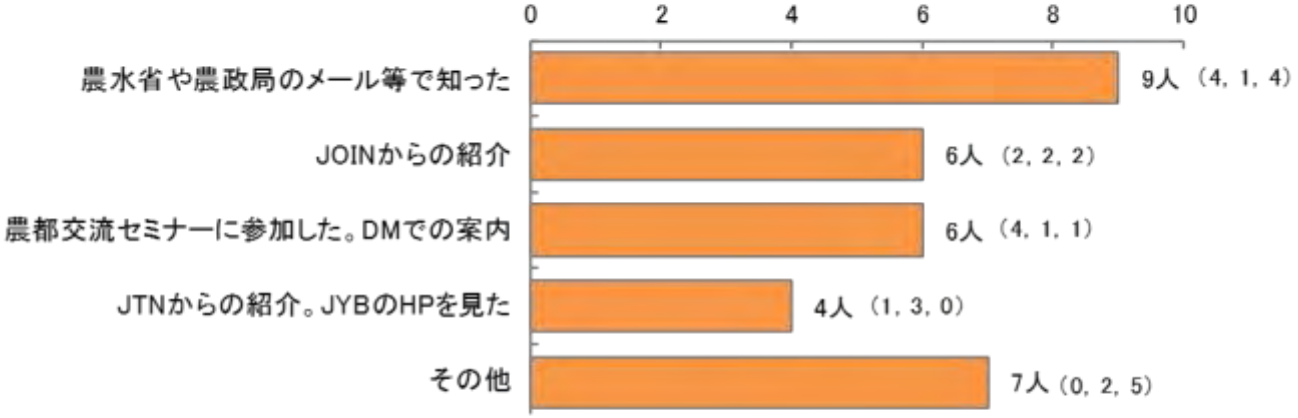
1）山形県飯豊町　　2014年11月6日（木）～7日（金）（回答者18名）

2）岩手県遠野市　　2014年12月4日（木）～5日（金）(回答者9名）

3）大分県宇佐市安心院　　2015年2月19日（木）～20日（金）(回答者12名）

1．ワークショップの認知経路（複数回答）

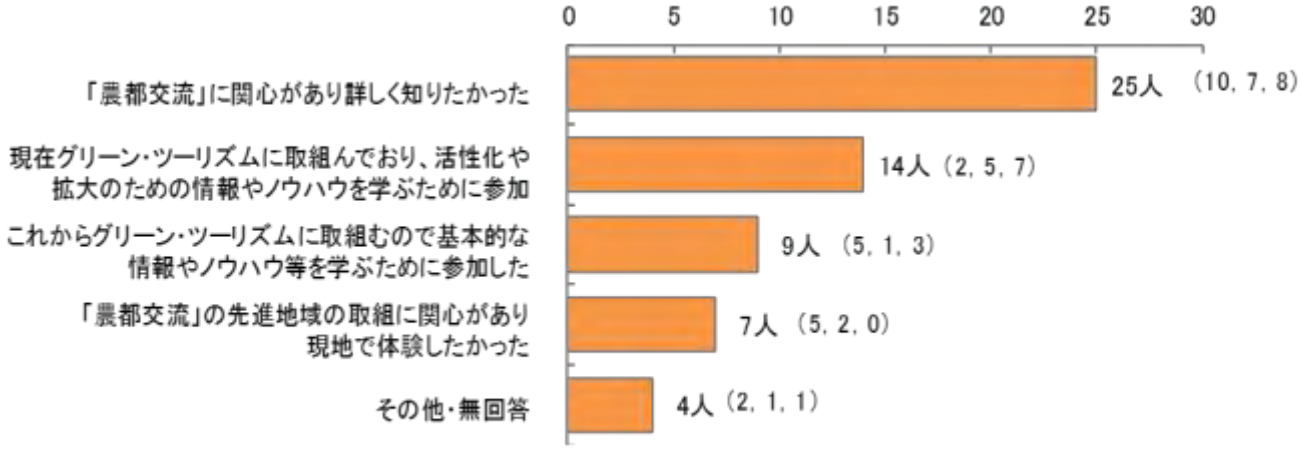
◆ワークショップの認知経路では「農水省のメール等で知った」と答えた人が多かった。農都交流セミナーを受講して、ワークショップにも参加したとする人も8人いた。。



※（ ）内は、順に（飯豊、遠野、安心院）の回答数を表している。

2．ワークショップへの参加動機（複数回答）

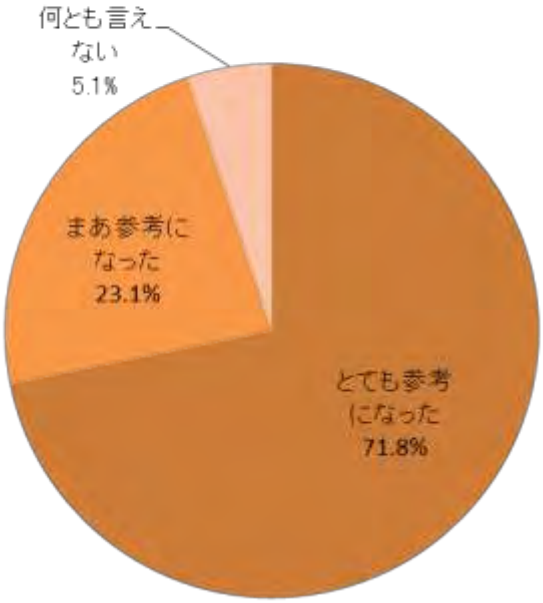
◆ワークショップへの参加の動機・理由については。「農都交流に関心があり詳しく知りたかった」とする答えが多く6割以上を占めた。その他、開催地が先進地であることから情報やノウハウを入手できるという期待も大きい。



※（ ）内は、順に（飯豊、遠野、安心院）の回答数を表している。

3. ワークショップへの評価

◆ ワークショップについては、「とても参考になった」と答えた人が7割を超え、「参考になった」とする人と合わせると95%に達する。



	とても参考になった	まあ参考になった	何とも言えない
飯豊（18人）	12人	5人	1人
遠野（9人）	7人	2人	—
安心院（12人）	9人	2人	1人

4. 今後「農都交流」を進めるうえで必要な情報（複数回答）

◆ 今後、農都交流を各地域で進める上では、「企業・大学の情報」がトップで、次いで「企業等へのアプローチ方法」が続いている。また「先進地や成功事例の情報」などへのニーズも高く、実践的な情報への期待が高い。

順位	必要な情報	全体	飯豊	遠野	安心院
1位	農山漁村との交流を希望する企業・大学等の情報	**25人**	10人	6人	9人
2位	企業等（農山漁村）への具体的なアプローチ方法	**23人**	9人	6人	8人
3位	農都交流の先進地や成功事例の方策等の情報	**18人**	9人	5人	4人
4位	企業等の受入体制や組織、人材育成等の情報	**13人**	6人	4人	3人
5位	農都交流に関して助言がもらえる相談相手の情報	**12人**	4人	4人	4人
6位	大学や企業の受入を希望する農山漁村の情報	**9人**	4人	1人	4人
7位	企業等の受入に必要なプログラム等のソフト情	**9人**	3人	3人	3人
8位	企業等の受入に必要な施設等のハード情報	**7人**	3人	2人	2人
9位	その他	**2人**	1人	0人	1人

5. 現在取り組んでいる活動と今後取組みたい活動

◆ 現在都市部との間で取組んでいる交流活動は「学校教育の受入」や「家族やグループのレジャー活動」が中心となっている。しかし、今後取組みたい交流活動fでは、学校教育が低下し、「企業や大学との継続的な受入」や「訪日外国人旅行者の受入」等が上位に現れる。「学校教育」のからの転換の意識や動きが感じられる。

【現在取り組んでいる交流活動】(複数回答)

順位	現在行っている活動	全体	飯豊	遠野	安心院
1位	近隣や都市部の小中高校の受入(宿泊学習)	**22人**	8人	6人	8人
2位	近隣や都市部の小中高校の受入(日帰り学習)	**15人**	5人	7人	3人
3位	味覚狩りや収穫体験による家族やグループの受入	**13人**	6人	1人	6人
4位	訪日外国人旅行者(団体)の受入	**11人**	2人	3人	6人
5位	レジャーや社員旅行等での企業、大学等の単発受入	**8人**	3人	1人	4人
6位	合宿や研修等による企業、大学等の継続的な受入	**7人**	4人	2人	1人
7位	訪日外国人旅行者(個人やグループ)の受入	**5人**	1人	0人	4人
受入は全く行っていない		**1人**	1人	0人	0人

【今後取組みたい交流活動】(複数回答)

順位	今後行いたい活動	全体	飯豊	遠野	安心院
1位	合宿や研修等による企業、大学等の継続的な受入	**25人**	10人	7人	8人
2位	訪日外国人旅行者(団体)の受入	**12人**	2人	3人	7人
2位	レジャーや社員旅行等での企業、大学等の単発受入	**12人**	5人	1人	6人
4位	近隣や都市部の小中高校の受入(宿泊学習)	**11人**	3人	4人	4人
5位	訪日外国人旅行者(個人やグループ)の受入	**10人**	4人	1人	5人
6位	味覚狩りや収穫体験による家族やグループの受入	**9人**	2人	1人	6人
7位	近隣や都市部の小中高校の受入(日帰り学習)	**7人**	3人	3人	1人
8位	その他	**1人**	1人	0人	0人

2014年度 農都交流プロジェクト

モニターツアー参加企業等アンケート調査結果レポート

※ 本レポートは2014年度に実施した以下の農都交流モニターツアーの参加企業等に行ったアンケート調査の集計結果の速報である。

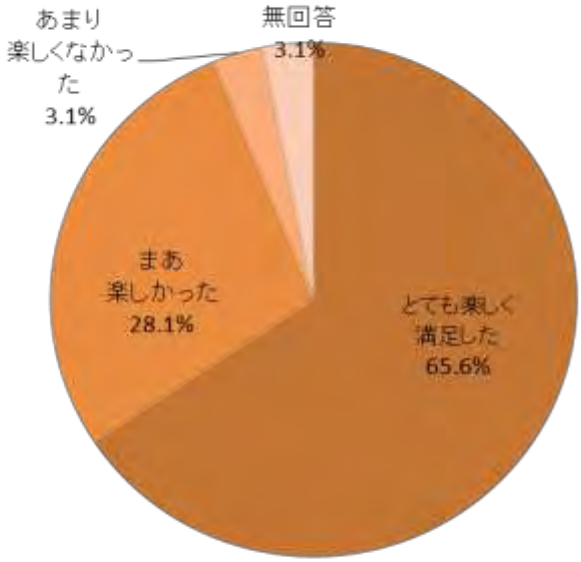
1）島根県雲南市　2014年11月13日（木）～15日（土）（回答者10名）

2）栃木県大田原市　2015年1月22日（木）～23日（金）（回答者12名）

3）静岡県掛川市　2015年2月5日（木）～6日（金）（回答者10名）

1. モニターツアーに参加しての感想

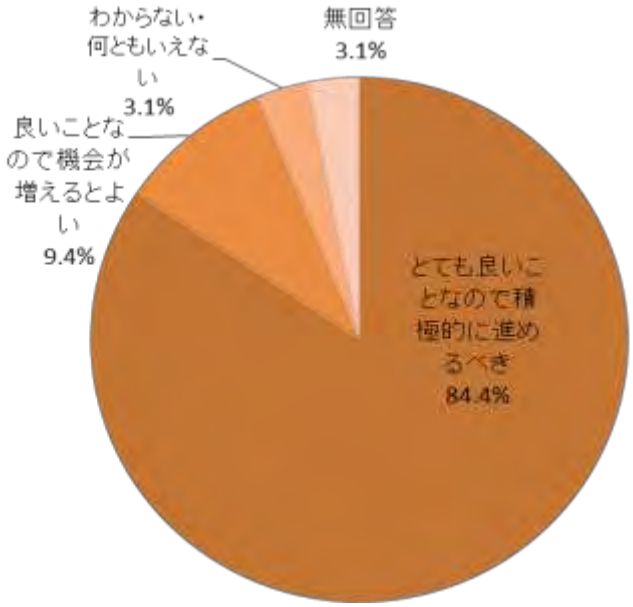
◆モニターツアーで体験した農業体験や地域の人たちとの交流等については、参加した企業関係者等のほとんどが「楽しかった」と評価。満足度は高い。



	とても楽しく満足した	まあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
雲南市（12人）	11人	1人	—	—
大田原市（10人）	8人	2人	—	—
掛川市（10人）	2人	6人	1人	1人

2. 都市部の企業・大学等が農山漁村で研修等の交流活動を行うことについて

◆都市部の企業・大学等が農山漁村で研修等の交流活動を行うことについては、85%が「とても良いことなので積極的に進めるべき」と回答。昨年度の調査でも同様であり、都市と農山漁村との交流に関しては、「進めるべき」という合意が形成されている。



	とても良いことなので積極的に進めるべき	良いことなので機会が増えるとよい	わからない・何ともいえない	無回答
雲南市（12人）	10人	ー	1人	1人
大田原市（10人）	10人	ー	ー	ー
掛川市（10人）	7人	3人	ー	ー

3. 都市部の企業等で現在行っている農山漁村との交流活動（複数回答）

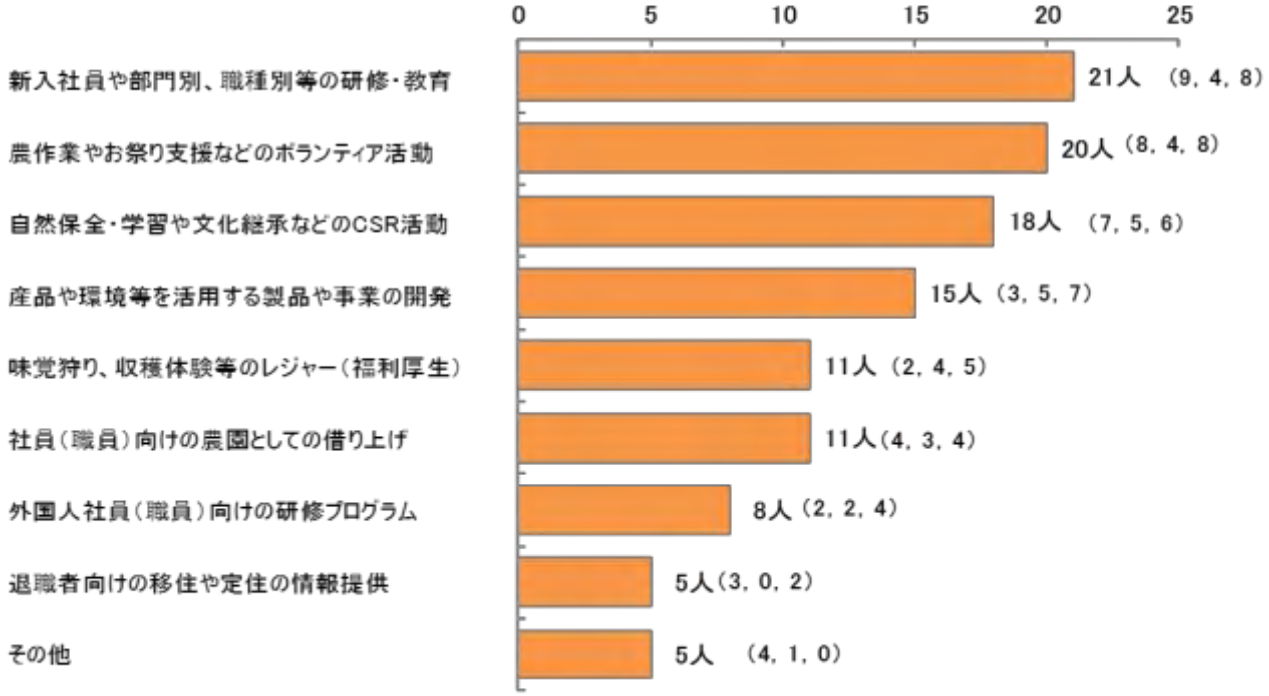
◆都市部の企業等で現在行っている農山漁村との交流で多いのは、農山漁村をフィールドにした「CSR活動」「産品を利用した製品や事業開発」「ボランティア活動」がいずれも14人と多く、次いで「研修・教育」となった。交流の内容や形態は多様化している。

（人）

交流活動	合計		雲南市		大田原市		掛川市	
	組織全体	支社や部署	組織全体	支社や部署	組織全体	支社や部署	組織全体	支社や部署
ア　自然保全・学習や文化継承などのCSR活動	8	6	5	1	1	1	2	4
イ　農作業やお祭り支援などのボランティア活動	9	5	4	1	1	1	4	3
ウ　新入社員や部門別、職種別等の研修・教育	7	5	3	1	2	－	2	4
エ　産品や環境等を活用する製品や事業の開発	9	5	3	2	2	1	4	2
オ　味覚狩り、収穫体験等のレジャー（福利厚生）	9	－	3	－	3	－	3	－
カ　社員（職員）向けの農園としての借り上げ	5	－	1	－	1	－	3	－
キ　退職者向けの移住や定住の情報提供	6	－	1	－	1	－	4	－
ク　外国人社員（職員）向けの研修プログラム	6	－	2	－	1	－	3	－

4. 今後取り組めばよいあるいは継続すればよいと考える交流活動（複数回答）

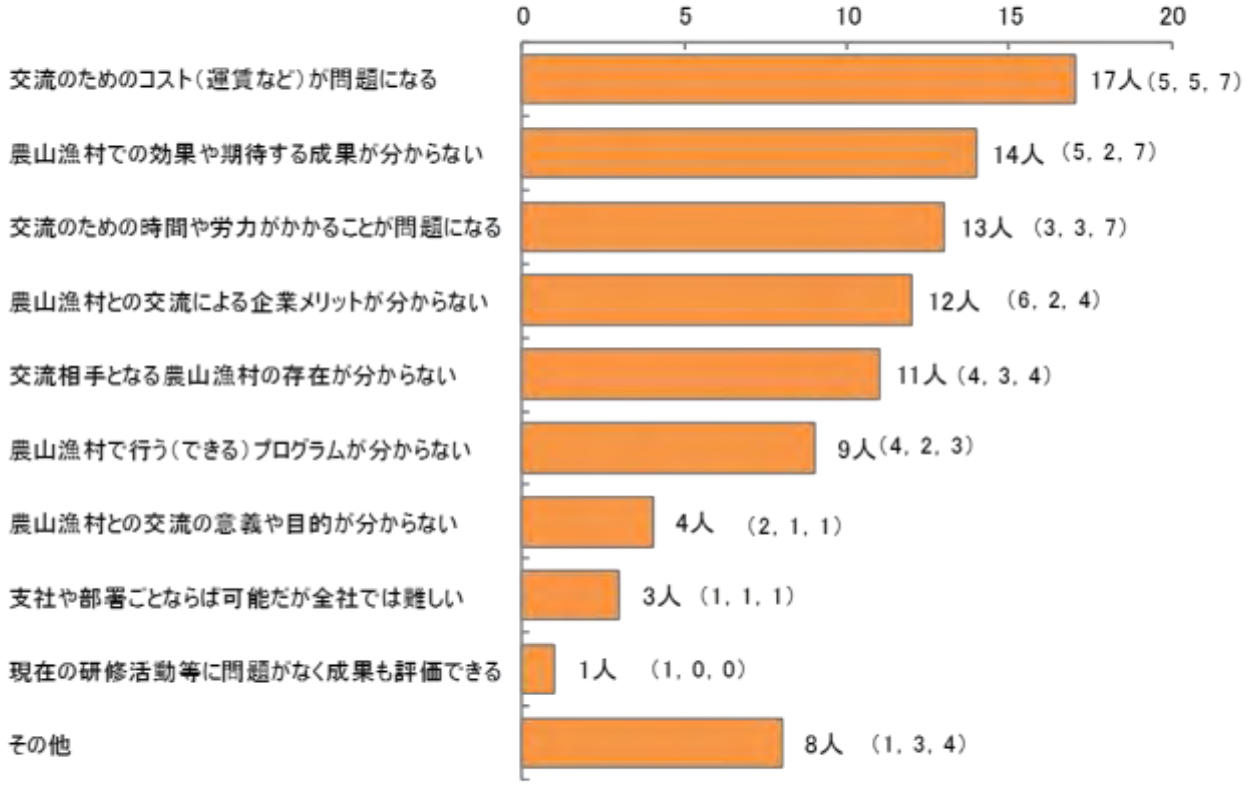
◆今後の取組意向（現在行っている企業は継続意向）については、「企業研修・教育」での農山漁村との連携を挙げる企業が最も多く、次いで「ボランティア活動」「CSR活動」が差がなく続いている。



※（ ）内は、（雲南市，大田原市。掛川市）の回答数を表している。

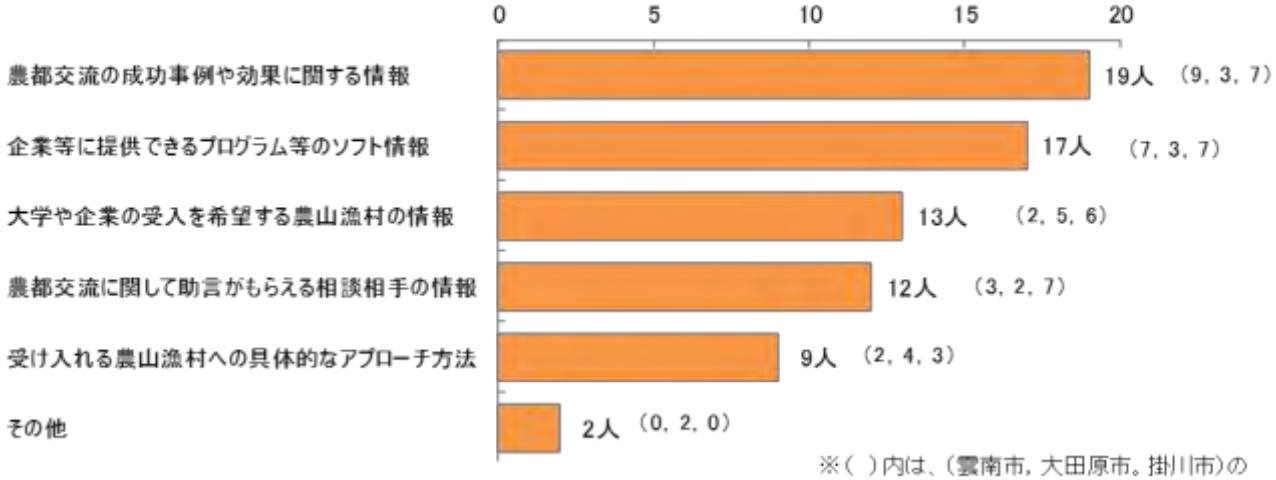
5. 都市部の企業・大学が「農都交流」を行う上での課題（複数回答）

◆農山漁村との交流を行う上での課題としては、「運賃などの交流に必要なコスト」がトップで、以下「交流の効果が分からない」「時間や労力がかかる」「企業メリットが分からない」等が続き、「負担」と「効果」への理解が課題となっている。



6. 今後「農都交流」について知りたい・欲しい情報（複数回答）

◆「農都交流」に関して今後知りたいのは、「交流の成功事例や効果に関する情報」が最も多く、農山漁村との交流の意義は認めているが、それを進めるためには、一歩進んで具体的な効果を知りたいという考え方がうかがわれる。



※（ ）内は、（雲南市，大田原市。掛川市）の回答数を表している。